

平成29年度 学校評価（自己評価及び関係者評価）

評価:A 妥当 B やや妥当 C あまり妥当でない D 妥当

		自己評価				関係者評価		
A:4.0～3.5 B:3.4～3.0 C:2.9～2.5 D:2.4～1.0		平均	達成度	今年度の成果と課題	次年度にむけての改善案	達成度	ご意見等	
総務部	(1)	オープンハイスクールで明石西高校の良いところをアピールできたか。	3.5	B	・総務関連の仕事などはおおむね順調に終わった。 ・人権福祉講演会のLGBT関連の性同一性障がいを告白されている歌手の「悠以(ゆい)」氏への生徒たちの感想ではなかなか知ることのできない内容を知ることができてよかったというような感想が多く寄せられた。 ・オープンハイスクールの発表は生徒会を中心として何度かのリハーサルを経て中学生やその保護者に本校の良さをアピールできた。	・来年度からのトイレの改修工事で乾式の床になる件では掃除の方法を根本から考え直さなければならないと考える。	B	・オープンハイスクール等で学校のアピールを生徒たちが行うことは、実際を伝える上でいいことだと思います。 ・掃除については、広い施設内を丁寧にを行うには限界があると思いますし、ある程度清潔感が出ると、生徒たちの意識も変わるといいますので、外部専門業者に依頼することは良いと思います。 ・人権福祉講演会などでの話は、生涯を通して大切だと思うので、これからも続けてほしい。
	(2)	人権福祉講演会の人選（性同一性障がいの悠以さん）は社会問題（LGBT）に即していたか。	3.7	A				
	(3)	清掃分担は適切に行われていたか。	2.9	C				
教務部	(4)	新教育課程を編成するうえで、各教科・学年の協力を得ることができたか。	3.1	B	・問題点を全職員で共有できるよう「学校としての視点」で教育課程を考えることを促したい。 ・全科目・全教科のシラバスが共有できるようになった。今後は、それを日ごろの授業、評価にどう生かしていくか、各教科で十分検討する必要がある。	・今後はより学校として健全な教育課程とは何か、具体的な問題を提起し、改善に努めていきたい。 ・シラバスをもとに、各教科・各科目の授業内容・評価方法などを具体的に生徒たちに説明し、評価等にも関連付けていく。	A	・進路と教育課程のバランスは難しいとは思いますが、学校の努力を期待する。 ・シラバスの活用については、生徒の意欲的活用が出来るものであってほしい。 ・智・徳・体のバランス有る方向性を大切にしていきたい。
	(5)	各教科でシラバスを日常の授業、評価の際に十分活用できたか。	2.6	C				
生徒指導部	(6)	校則違反も含めて、指導件数が減少したか。	2.6	C	・教員の意識に差がある。 ・部活動を通じての教育的指導には一層の改善の余地がある。 ・SNSに関する講座を定期的に行っているのは大きい。	・教員が一つになれるように、出来るだけ指導のマニュアル化を図り、教員の共通認識を図る。 ・顧問会を通じて、部活動を通じての生徒指導の共通理解を計る。	B	・普段から生徒をよく見て、生徒の変化への早期の気づきを期待する。 ・定期的なSNSに関する講座は引き続きお願いしたい。 ・家庭にもより一層協力を呼びかける必要があると思われる。 ・挨拶を通して生徒に礼儀の大切さを伝えると同時に、先生方との信頼関係を醸成できれば、笑顔での挨拶により変化していけると思われる。
	(7)	部活動を通じて学校の活性化に繋がったか。	3.0	B				
	(8)	S N S の有効利用が浸透したか。	2.6	C				
進路指導部	(9)	生徒の進路選択のサポートが適切にできたか。	3.4	B	・各学年の保護者会において、学年段階に応じた進路情報を提供できた。 ・3年生に対しては、各種の進路説明会を実施して生徒の進路意識を向上させた。また、就職希望者には、夏季休業中に面接指導などを実施して高い内定率を得た。	・進路情報の収集に努めて、進路説明会や保護者会の内容の充実をはかる。 ・学年と連携して、教科指導だけでなく面接や小論文などのきめ細かい指導を充実させる。	A	・多種多様な進路希望の情報提供は大変なことと思うが、将来を見据えた進路指導をお願いする。 ・保護者に対する丁寧な進路説明会がとても役に立った。 ・より良い進路結果を得るため、先生、生徒、保護者との連携を大切にしていきたい。
	(10)	各学年に必要な進路情報を提供できたか。	3.3	B				
保健部	(11)	感染症などの情報を生徒に周知することができたか。	3.2	B	・感染症の情報を適時に周知できた。 ・様々な課題を取り上げた保健だよりを定期的に発行できた。	・インフルエンザ以外の感染症についても、適時に生徒に周知する。	B	・インフルエンザ等の感染症にかからないように、さらに予防を徹底してほしい。 ・季節や感染症の流行に沿った保健だよりが発行されていると思う。
	(12)	健康への興味関心を高めるために保健だよりを発行できたか。	3.4	B				
図書情報部	(13)	ランサムウェア等のウイルスに関する講座を設け、職員の情報セキュリティに対する意識を高めることができたか。	3.4	B	・ランサムウェア等のウイルスについて、短時間ではあるがミニ講座という形で職員研修を持つことができたのは良かった。 ・図書委員の委員会活動の充実を目指し、図書便りの作成、図書室利用促進のための新しい企画を実施するなど、積極的に行動することができた。	他の部に統合されていく個々の仕事について、丁寧に引き継ぎを行っていく必要がある。	A	・図書館の有効活用をお願いする。 ・生徒による企画や図書便りなどの積極的な活動を評価したい。 ・セキュリティに対する問題は難しいが、今後も対応していきたい。
	(14)	図書便り製作を含めた図書委員の委員会活動を、充実させることができたか。	3.5	B				

			平均	達成度	今年度の成果と課題	次年度にむけての改善案	①	学校関係者の意見等
第1学年	(15)	高校生らしい髪型・服装ができたか。	3.1	B	・基本的生活習慣(髪型・服装など)はおおむね定着してきているが、時間厳守や挨拶に関してはもの足りない部分もある。 ・自主的に行動する生徒も出てきたが、状況判断が十分にできないといった生徒もいる。 ・頑張っている生徒もいる反面、学習習慣の定着が不十分で意欲が低い生徒もいる。	・挨拶に関しては、今後も継続して意識的な声かけをおこなう。 ・中堅学年としての自覚を促し、より自立した個人へと成長させていきたい。	B	・あいさつに関する課題が挙げられていますが、生徒からのあいさつはとても気持ちよく感じる。また、大人が見本になるべきだと思う。 ・下級生ができるという自覚をもって、高校生活を送ってほしい。 ・生活面、学習面でも高校生活1年間の経験を土台として、心身ともに成長していただきたい。
	(16)	生活三原則である時間厳守・気持のよい挨拶・心を込めて掃除ができたか。	2.8	C				
	(17)	授業や小テスト、週末課題にしっかり取り組めたか。	2.9	C				
第2学年	(18)	明西祭や体育大会・修学旅行等の行事や部活動に主体的に取り組むことができたか。	3.3	B	・明西祭・体育大会などの諸行事においては、3年生の指導のもと、楽しんで積極的に取り組むことができた。 ・修学旅行・研修旅行は、事前学習を含めしっかり取り組んで、最高の思い出をつくることができた。	・諸行事においては、最上級生としてしっかりリーダーシップを発揮し、充実した内容にしてほしい。 ・学業においては、それぞれの進路実現が達成できるように、情報提供をはじめ実力の向上をはかっていきたい。	B	・高めの目標を掲げることができるのもこの学年だと思いますので、意欲的な指導をお願いしたい。 ・進路実現に向けて、勉学に励んでほしい。 ・最上級生になる自覚と、これまでの高校生活の集大成として悔いの残らないよう、学業と生活態度を高めて欲しい。
	(19)	小テストや日々の授業、補習等に主体的に取り組むことが出来たか。	3.0	B	・小テストや授業への取り組みは、生徒により温度差はあるが、概ね良好だった。ただ実力が定着しない生徒が多いのが課題である。			
第3学年	(20)	学校行事や部活動・日常生活において、最上級生としての自覚を持って行動できる生徒の育成をはかれたか。	3.3	B	・文化祭・体育大会等学校行事や日常生活で、下級生に対しある程度模範を示せた。 ・LHR・保護者会・学年通信を利用して、進路に関する情報を発信することが出来た。また、きめ細かい個人面談を通して進路実現のための情報提供を行えた。		B	・成果を見ると、個々の生徒への細かい対応ができていよう。次の3学年への引き継ぎをしていただきたい。 ・個人面談で最後まで生徒の進路にご尽力いただき感謝している。
	(21)	面談などを通じて各自の進路に応じたきめ細やかな指導を行うと同時に、進路ガイダンスや保護者会などで生徒や保護者に適切な情報発信を行えたか。	3.4	B				
国際人間科	(22)	公開授業等も含めて、国際人間科の授業の魅力を中学生・中学校教員に伝えられたか。	3.6	A	・学校説明会、オープンハイスクールの授業公開、大学と連携した指導力向上事業での公開授業等を通じて中学生、保護者、中学校教員に生徒の活動的な様子を理解してもらえたと思う。近隣他校にはない授業は十分に機能している。	・多くの機会をとらえて、中学校の教員が多く参加できる公開授業を行いたい。 ・進路面のサポートに関しては、学力面のサポートだけでなく、卒業生(大学生・社会人)にも講話等を行ってもらう機会を検討中である。	A	・現在取り組んでいる内容を維持して、さらに、市内に住む多くの外国の方々との交流を期待する ・学校全体が、国際交流や英語教育に力を入れ、取り組んでいることを特色にしていきたい。 ・西高全体に、この貴重な機会を広げていただき、さらなる独自性を広めていただきたい。
	(23)	特色ある科目を魅力あるものにできたか。	3.5	B				
	(24)	希望進路に向けて十分にサポートできたか。	3.6	A				
普通科(教育類型)	(25)	多くの説明会に参加し、学区内の中学生・保護者に教育類型の授業のメリットを理解してもらえたか。	3.6	A	・説明会やオープンハイスクールの参加者数が過去最高であった。 ・全学年を通じて説明会に参加し、教育類型を伝える役割を果たした。 ・学力の定着(進路結果)が課題である。	・広報活動にもっと在校生を活用し、出身中学校を訪問して現況を伝える機会を設定する。 ・1年次の「教育Ⅰ」(総合的な学習の時間)の在り方を考える。	A	・教育類型の志願者増は、魅力の発信が十分にできているから、であると思う。 ・赤ちゃん先生や地域の学校や塾に積極的に関わり、教育と子どもの成長に触れる機会を今後も継続していただき、「AIJ」にはできない教育につなげてほしい。 ・もっと多くの人に教育類型を知ってもらえるように、これからも説明会でいろいろな魅力を伝えてほしい。
	(26)	進路実現に向け、3年生の学力は定着したか。	3.0	B				
人権教育	(27)	年間人権目標に従って、適切に人権HRが計画・実施され、生徒に差別をしない心の育成ができたか。	2.8	C	・学年ごとの人権目標に沿って人権HRが実施され、各々の段階に応じて人権意識を高めることができた。 (シンガーソングライターの悠久(ゆい)氏による人権福祉講演会については、「総務部」を参照)	・学年間の人権HRを、より連携を持たせるために、人権教育担当から積極的にHR案を提示していく必要がある。 ・今後とも適切な講師を選定し、生徒の心情に訴える人権福祉講演会を継続することが必要である。	B	・差別やいじめは、子どもたちの中だけでなく、大人の社会でもあり、社会全体の課題だと感じる。講演会を実施し、心の中のバリアフリー化ができることを願う。 ・シンガーソングライターの悠久氏の講演は、生徒たちに感動を与え、人間としての尊厳を考えるいい機会になったのではないかと感じる。変動する社会の中で、柔軟に課題を見つけ、人権教育につなげてほしい。 ・その他の人権問題にも取り組んでほしい。
	(28)	生徒の人権に対する意識や知識を高めるため、適切に人権講演会を実施し、結果を把握できたか。	3.0	B		・研修会の機会をできるだけ増やし、職員の共通理解を高め、新しい人権意識を職員に修得してもらおう。 ・車いす生活の生徒のためにも、よりバリアフリーの学校を目指す必要がある。 ・LGBT教育について、さらに取組を進めていく必要がある。		
	(29)	人権に対する職員の共通理解や意識を高め、新しい知識を修得できるよう職員研修会を行えたか。	2.6	C				